

「強み」を 磨け

社員数はわずか五人。しかし、数百家に及ぶ中小企業の技術開発や支援に携わってきた新産業創造研究機構（NIR）がこの会社は、将来必ず伸びる」と、太鼓判を押す企業だ。

創業から六年目の今年十一月には、有馬ベンチャー企業として関西ニュービジネス協議会の表彰も受けた。受賞を機に、大手建設業者や住宅メーカーからの問い合わせが相次ぐが、社長の矢野直達（みちのり）の自己評価は「私の計画通り

ヤノ技研 (宝塚市)

五年は遅い」と厳しい。

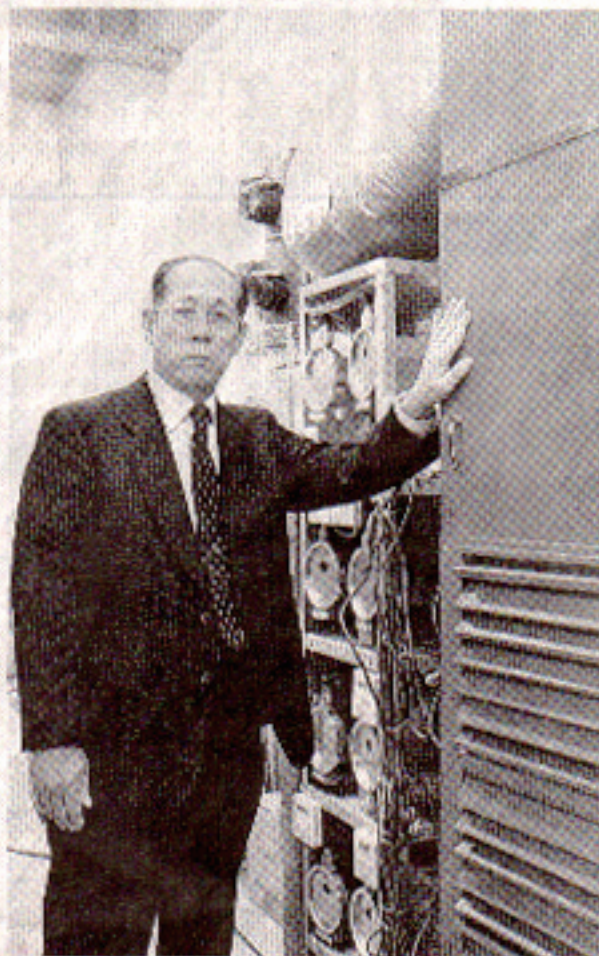
かつて大手住宅メーカーに勤務し、住宅用の蓄熱空調システムの開発を担当。電力会社や大学と連携し、エアコンの熱エネルギーや冷熱を蓄え、効率的に使うことで二酸化炭素を削減する空調システム開発を目指した。

しかし、景気の悪化などから、採算が取れるまでに時間がかかる」との理由でアロシ

データ 2002年
12月に創業

し、資本金は1950万円。宝塚市にある本社のほか、神戸・ポートアイランドの神戸国際ビジネスセンターに研究所を構える。ヤノ技研のシステムは1台のエアコンで全室の空調ができるのも特長という。

空調システム



「研究者人生を注いで開発した空調システムです」と語る矢野直達社長。自ら研究し、改良に励む。神戸市中央区港島南町、神戸国際ビジネスセンター

エクトは中止に追い込まれた。「事業化を目前にして、長年の夢が絶たれた」と当時の思いを振り返る。

その後、定年を迎えた矢野は起業を決意。「環境保護への関心が高まるなか、地球に

優しい空調が求められる時代は必ず来る」と確信していたからだ。勤務していた住宅メーカーから自身が開発した技術の特許を譲り受け、二〇〇二年にヤノ技研を設立した。

矢野らが開発したのは、料金安い深夜電力を利用して蓄熱する空調システム。加えて、一八度の温度で空調に必要とする。新しい技術や製品は開発できたものの、会社を設立した当初は厳しい状況が続いた。住宅メーカーに在籍していた当時は話を聞いてくれた取引

先にも相手にしてもらえず、大手企業から独立することの大変さも実感した。

現状を打開するため、NIRの支援を受けながら、大手のモデル住宅や民間住宅への試験的な導入を促した。兵庫県や神戸市の補助事業にも積極的に応募。採択を信頼性の証しとして売り込んだ。

関西ニュービジネス協議会やNIR、県などからは、技術だけでなく、会社の高い環境意識への評価も受けているという。「長い道を走って、ようやく飛ぶのかな、という所まで来ることができた。退職する日がまた遠くなったかな」。ほほ笑みながらの口調には確かな情熱がこぼれた。

（取材協力）
（末水陽子）

省エネの時代先取り

続・光る企業